

平成13年度当初予算 基本事務事業目的評価表

[基本事務事業名]	斎宮歴史博物館事業	(102)
[評価年月日]	平成12年10月12日	
[主担当部課名]	斎宮歴史博物館	
[記入課名・課長名・電話]	斎宮歴史博物館 藤澤 英三	0596-52-7021

1 総合計画の政策体系上の位置づけ

政策：	文化・スポーツの振興	(I-3)
施策：	文化的資産の継承と活用	(2)
総合計画の目標項目：	保護、保存されている指定文化財の数	1932件
	国、県指定文化財のうち活用されている文化財数	162件
	市町村と連携して整備を図る史跡数	13件
波及効果・副次的効果を及ぼすと考えられる施策：	流域圏づくりの推進	
	みえ歴史街道構想の推進	
	集客交流産業（ビジターズ・インダストリー）の振興	

2 基本事務事業を巡る環境変化(過去 現状 将来)

社会が高度成長から知的成熟を求める時代に入り、人々の価値観も「物」の豊かさから「心の豊かさへと移りつつある中で、余暇時間の増大等ともあいまって、歴史・文化への関心がこれまでになく高まっている。

斎宮歴史博物館は、我が国で類例をみない極めて特異なテーマ博物館として、開館以来、歴史や文化を愛する多くの人々に親しまれてきた。

しかしながら、バブル経済破綻後、経済社会活動等の全体としての低迷や人々の意識や行動様式の多様化は、一方で博物館への足を遠のかせる現象も生まれ、当「斎宮」への来訪者も伸び悩みの状況にある。

こうした状況を打開し、入館者数の増大等につなげるためには、斎宮に関するより高度で充実した研究成果・展示の提供や史跡整備のさらなる推進により内外に誇りうるサイトミュージアム（史跡博物館）としての地位を高めるとともに、県民との協働事業等の推進を通じて開かれた魅力ある博物館を目指して取り組んでいく必要がある。

3 基本事務事業の目的と成果

3-(1) 対象と意図(何をどういう状態にしたいのか)

県内外に史跡斎宮跡の発掘調査や文献・資料等の研究成果をわかりやすく公開するとともにサイトミュージアムとしての整備を進め、斎宮に対する理解と関心、興味を高め、県民はもとより全国からの来訪者を増やしたい。

3-(2) 成果指標名・成果指標式(総合計画の目標項目には*を付す)

指標名	史跡斎宮跡保護・活用度	*	*
指標式		(年間来館者 + 史跡利用者数)	
史跡斎宮跡保護・活用度	=	$\frac{\text{年間来館者}}{\text{三重県民数}} \times 100$	
(代)	=	$\frac{\text{史跡斎宮跡保護・活用度}}{\text{史跡斎宮跡保護・活用度}} \times 100$	

② 変更した場合の成果指標名・成果指標式

3-(3) 設定した成果指標に関する説明(指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など)

斎宮に対する関心度のバロメーターは来訪者数に端的に現れるといえるが、こうした成果指標には、斎宮への交通アクセスの整備状況、案内誘導施設の整備状況や地域のホスピタリティー等がその動向に影響を与える大きな要因となる。

3-(4) 結果(施策における2010年度の目標)

保護、保存されている指定文化財の数	2200件
国、県指定文化財のうち活用されている文化財数	200件
市町村と連携して整備を図る史跡数	16件

4 基本事務事業の評価

4-(1) 前年度(H11年度)における基本事務事業の結果評価

①前年度に行った内容と成果

- ア オープン記念イベント事業「歴史トークandウォークin斎宮」と10周年記念ミニシンポジウムの開催
- イ 全国4都市(横浜、大阪、高松、福岡)における巡回展の開設
- ウ 体験学習施設「いつきのみや歴史体験館」の建設
- エ 常設展示のリニューアル
- オ 博物館の外壁等、雨漏りの大規模修繕

②前年度に残った課題

- ア リニューアルオープンした当博物館と新設「いつきのみや歴史体験館」の相互一体化、連携強化による全国への情報発信とこれによる地域活性化の推進
- イ 斎宮跡1/10史跡全体模型の制作
- ウ 映像展示の作品2本がいずれもマンネリ化の傾向にある上、映像機器の故障が多く内容及び機器の刷新再構築が必要となっている。

4-(2) 本年度(H12年度)における基本事務事業の見込み評価

①本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

- ア 10年の博物館事業の成果を基にリニューアルを行ない、グレードアップを図った博物館とし

てオープンした。博物館の基本を成す展覧会事業、新機軸としての体験学習事業などの展開により、リピーターを含む県内外の多くの人々が訪れる魅力ある施設として新たな館イメージの情報発信を行い、史跡斎宮跡の紹介に務めた。また、楠田枝理子氏の名誉館長就任などより親しみのある施設としてのイメージ作りにも努め、昨年度完成した体験学習施設「いつきのみや歴史体験館」との相互協力活動や連携広報活動により、史跡斎宮跡への来訪者の増加が見込まれる。

- イ 史跡斎宮跡の発掘調査30周年を記念して、「特別展」を開催し、斎宮の情報発信に努めている。また、これまでの調査成果を集大成的に取りまとめた『斎宮跡発掘調査I』を刊行し、調査研究成果を広く公表する。

②本年度残ると思われる課題

ア 全国への情報発信とともに、県内・地元へのきめ細やかなアプローチや、館への誘引手法の

開拓等に取り組むこと

イ 学校等の行事や自主活動等とのリンクに務め、利用の「組織化」に取り組むこと

ウ 斎宮跡歴史ロマン再生事業における1／10野外模型の製作等引き続き史跡整備を進めること。

エ 本年度実施できなかった資料収集を行ない、館蔵資料の充実に努めること

オ 館運営を機能面から支える「中央監視システム」等の設備基盤の時代に対応した更新が課題となっていること。

5 基本事務事業の改革方向

ア 体験学習施設が完成したことによりこれまで以上に体験型事業に注力する。

イ 広く一般から公募により展覧会等の企画運営に参画してもらい、開かれた県民との協働事業的博物館運営を目指す。

ウ 学校との連携を強め、教育活動や生涯学習の場としての教育プログラムへの位置付け等、児童、生徒、県民にとって、より親しみのある施設となることを目指す。

6 成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画 目標数値	予算額等 (円)	必要概算 コスト (円)
	目 標	実 績		所要時間 (時間)	
前々年度 (H10年度)	3. 20	2. 52	入館者実績 4 6 5 3 9人	561,657 25,389	667,783
前年度 (H11年度)	年換算 3. 35	1. 79	入館者実績 半期 3 3 3 4 8人	769,359 25,008	873,142
本年度 (H12年度)	3. 38		入館者目標 6 3 0 0 0人	482,122 20,898	569,685
本年度補正後 (H12年度)				482,122 20,898	569,685
翌年度 (H13年度)	3. 49	――	入館者目標 6 5 0 0 0人	492,485 20,000	576,285
計画目標年次 (H 年度)		――		――	――

基本事務事業名：斎宮歴史博物館事業

7/4

7 翌年度 (H12年度) の基本事務事業における事務事業戦略プランシート (PPM: Project Portfolio Matrix)

<必要概算コスト： ☆5億円以上 ◎～1億円 ◇～5千万 △～1千万 ・1千万未満 ＊休止・廃止>

基本事務事業の成果向上への貢献度合



※ 各事務事業名の右に付した矢印は、それぞれの事務事業に対する力の入れ具合である「注力」の変化の方向を表している。

基本事務事業名：斎宮歴史博物館事業

8/4

8 基本事務事業を構成する事務事業の詳細

※ 新規事務事業には、事務事業名に(新)を付す

事務事業名 (担当課)	意図の指標名	事務事業の概要	13年度 予算額 (千円)	予算額 前年度比 (±千円)	13年度 所要時間 (時間)	所要時間 前年度比 (±時間)
管理運営費	博物館管理度 サービス度	博物館事業が円滑に運営されるよう博物館の各施設、機器等の維持管理を行う。	197,330	39,686	2,900	100
展覧会事業費	企画・特別展開催 数 展覧会開催に伴う 借用展示物の点数	博物館の常設展示、映像展示の運営をおこなう。企画展特別展を開催する。	25,922	△6,903	2,900	750
教育普及費	教育普及達成度	古典講座や歴史講座を開催し斎宮やその時代に関する情報の発信を行う。博物館ボランティアの育成を行う。	3,840	662	3,000	570
調査研究費	研究成果評価度	斎宮・斎王に関する文献を収集し、調査研究を行い、成果を発表する。	4,518	1,415	2,500	850
資料収集費	資料活用度	斎宮歴史博物館の展示資料を収集する。	13,601	△300	550	△1,350
体験学習事業費	体験学習利用度	斎宮で行われていた年中行事や祭祀を再現し、古代の技術・習俗・遊戯などに触れ、体験学習を行う。	30,965	△8,291	550	△3,800
緊急発掘調査費	調査面積 調査結果公開度数	斎宮跡解明のため発掘調査を計画的・継続的に実施する。	33,600	1,385	4,750	△450
歴史ロマン再生事業費	史跡整備率 史跡活用度	平安初期の斎宮寮にかかる建物の復元、当時の遺跡の復元模型等を作り斎宮跡の史跡整備を行う。	182,709	△ 17,291	2,850	△270